

北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移

おかやま酪農業協同組合
経済部 流通課 井上 哲雄

1) 乳牛専門市場初妊牛 3ヶ年の価格推移

平成21年乳価の再値上げの妥結及び飼料価格の引き下げにより、酪農情勢に明るい兆しが伺える中、都府県の生乳生産枠を確保するため導入意欲が活発化し過去2ヶ年の初妊牛価格の比較は、平均54千円～61千円高で年間を通し高値推移した。

表 ①

2) 平成21年各市場初妊牛価格

1月から3月は、春分娩中心の出回りで道内及び府県の需要が増し520千円以上で取引

4月から9月の初妊牛出回り頭数が、例年以上減少したことにより500千円～520千円と依然強気で推移した。

10月から12月は、下牧時期とも重なり各市場の出場頭数は増加傾向にあり480千円～500千円でした。各市場価格は表の通りです。

表 ②

3) 出場頭数と成立頭数（取引率）

◇平成20年乳牛市場

○出場頭数 31,851頭

○成立頭数 26,197頭

(82.2%)

◇平成21年乳牛市場

○出場頭数 27,606頭

○取引成立 24,204頭

(87.7%)

出場頭数は、前年対比86.7% 資源不足が伺え4,245頭減少です。

月別頭数の成立頭数は表の通りです。

表 ③

4) 価格帯の成立頭数割合

451千円～500千円 28.6%

501千円～550千円 30.6%

551千円～ 24.6%

一般に言われる裾ものの取り引きは、頻繁であり月別価格帯成立頭数・成立割合は次の表の通りです。

表 ④ ⑤

5) 今後の動き

北海道初妊牛価格の高騰により選別精液の活用するなど自家産後継牛に取り組み府県の需要の減少が推察できます。初妊牛の取引価格決定の要因として、肉資源不足が懸念されることから、F1腹の価格は強含みです。

平成22年1月の市況は、出場頭数2,122頭取引率94.3%平均価格524千円と依然強含みで取引されてます。

引き続き春産み中心の出回りとなることから2月についても堅調な相場展開が予測されます。

平成22年度生乳生産枠計画との絡みから保合いでの価格推移が予測されます。

表 ①

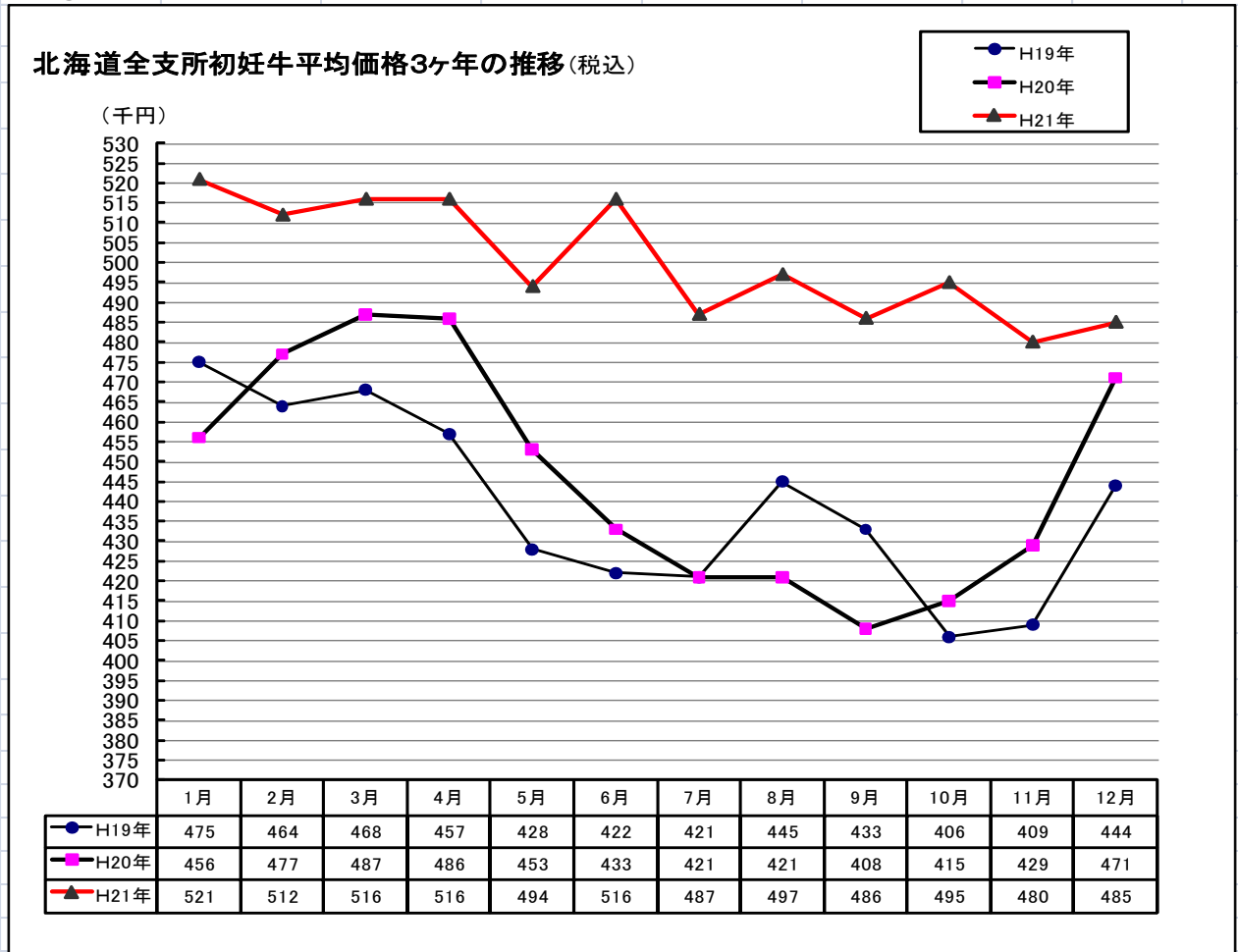
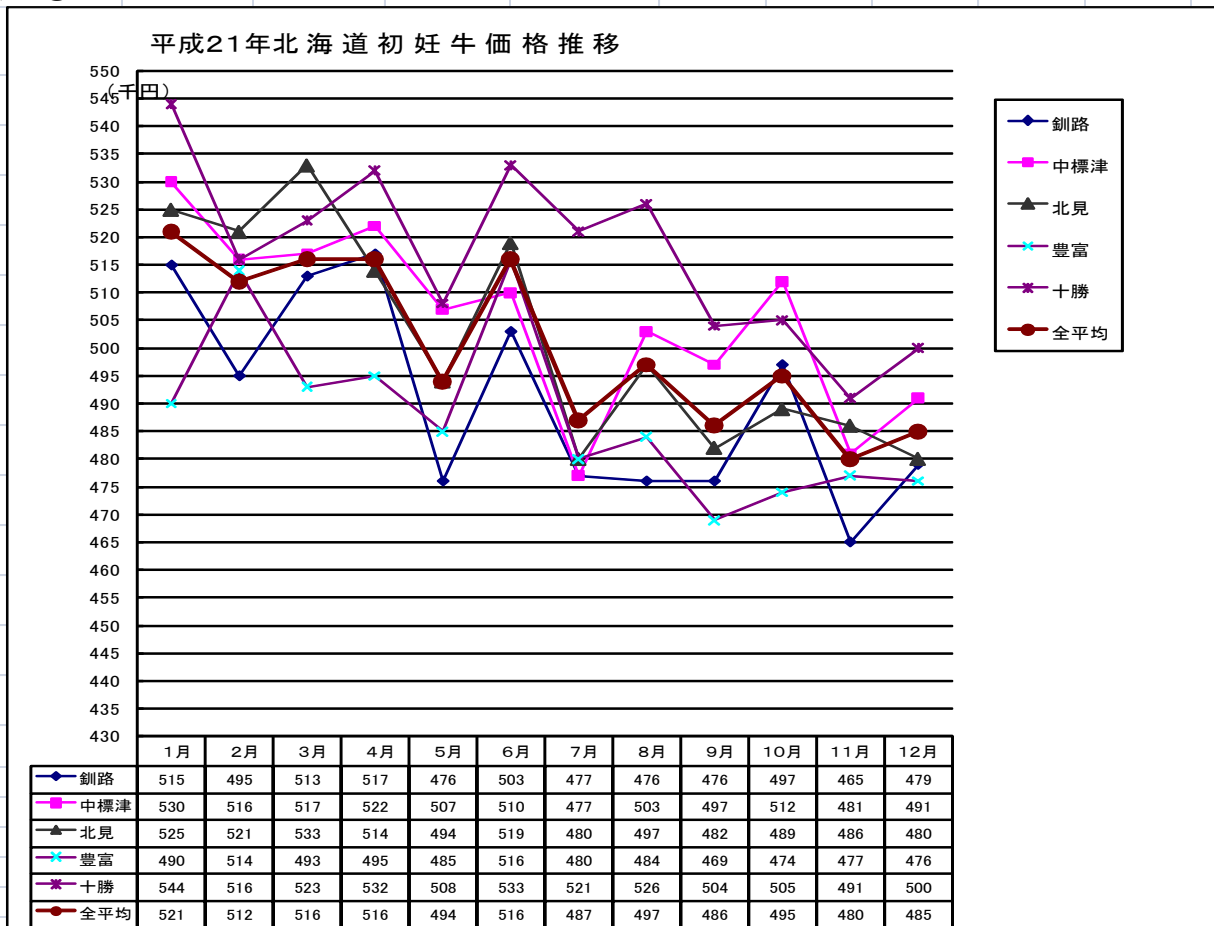
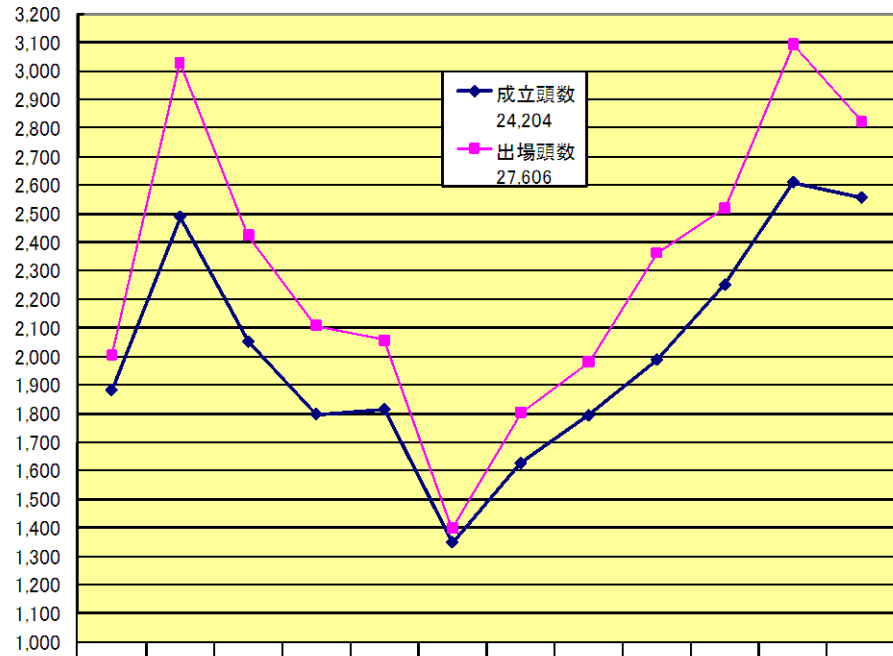


表 ②



表③

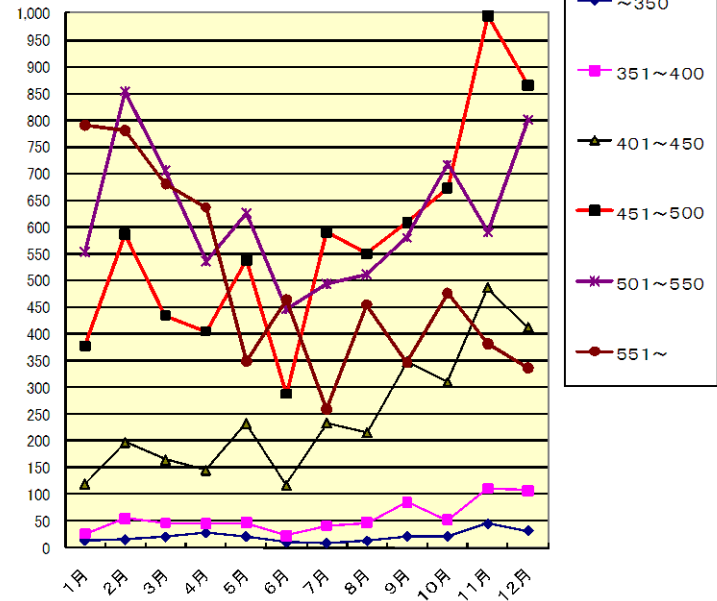
平成21年出場頭数・成立頭数



● 成立頭数24,204	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
■ 出場頭数27,606	2,004	3,030	2,425	2,107	2,058	1,398	1,804	1,981	2,363	2,520	3,093	2,823
▲ 取引率	93.9%	82.1%	84.6%	85.3%	88.1%	96.5%	90.2%	90.5%	84.1%	89.3%	84.4%	90.5%

表④

平成21年価格帯成立頭数



表⑤

価格帯成立割合

